

# 馬絹地区について

馬絹は北部と南部に多摩丘陵の高地が延び、その中央低地を矢上川が東西に流れる。馬絹村は江戸時代から続いたが、明治22年(1889)に土橋・有馬・野川・梶ヶ谷などの各村と合併して宮前村に発展した。その後、昭和13年(1938)に川崎市に合併され、同47年(1972)、川崎市の政令指定都市移行に伴い高津区に編入された。同57年(1982)には人口が増加し宮前区が分区された。馬絹の歴史は古墳時代に遡る。馬絹古墳は7世紀後半に築造されたと推測され、県の史跡に指定されている。馬絹は「皇国地誌」によれば、室町時代末期の永禄年間、稲毛庄馬衣郷を分割し、馬絹・梶ヶ谷・土橋の3村となり、以降、馬絹村と称することになったとある。三又は「馬絹の枝物」で知られた花作りの中心地であり、その優れた発色法は、市場で高い評価を得ていた。



## ⑦ 宮崎大塚



塚の一辺の長さ約28m、高さ約5.5mと推定される方墳。発掘調査が行われず詳細は不明であるが、6世紀頃に築造されたと考えられている。武器の隠し場所、物見塚、鎌倉街道の一里塚などと言う。大山詣が盛んな頃は、街道を往来する人びとの良い目標になった。またこの塚は、麻生区の王禅寺に向う王禅寺道の起点になっていた。

## ⑧ 大山街道

矢倉沢往還の大山街道は、江戸の赤坂から大山までの約80kmを結ぶ信仰の道であった。宝暦年間に最盛期を迎えるが、大山講の信者は関東地方を中心に、福島県・新潟県南部、長野県の佐久・松本地方、山梨県全域、静岡県の上野川以東、また遠くは愛知県の三河や八丈島から五穀豊穰・商売繁盛・航海安全などを願い大山に向った。文化文政期になると庶民の旅行が盛んになり、大山詣を兼ねた観光旅行が行われることとなった。二子・溝口宿から荏田宿に向う大山街道は、現在の宮前区を縦断するが多摩丘陵の起伏が激しく八幡坂・小台坂などの急坂が続く難路であった。

## ⑨ 王禅寺道

宮崎大塚を起点に、途中、平と土橋の尾根道を通り水沢から保木薬師を経て王禅寺に向っていた。王禅寺は、延暦17年(797)に高野山の無空上人が創建したと言われ、「東の高野山」とも呼ばれていた。

## ⑩ 三又と庚申堂

三又は大山街道の要衝で、庚申堂は相模川のアユを江戸に運ぶ「鮎担ぎ」人足が参拝し、ワラジを履き替える場であった。昭和16年(1941)に陸軍東部62部隊の接收に伴い、堂は33軒の農家とともに有馬境に移住させられ、今も堂内には延宝8年(1680)銘の庚申塔などが祀られている。また三又の農家は明治の中頃から山里の花枝を東京に出荷する枝物産地として知られ、大正時代からは「むろ」を使い花木を早咲きさせ、花や楽(がく)の優れた発色法は「馬絹の枝物」として市場で高い評価を得た。

## ポイント解説 (数字は裏面の散策コースのポイントに対応しています。)

### ① 軍標



昭和16年(1941)、現在の宮前区の中心部は、陸軍東部62部隊に接收された。軍標はその境界に沿って立てられた石造の標識で、「陸軍」と刻まれている。現在、馬絹には3基の標識が残されている。

### ② 矢上川

かつて、水源は烏谷(菅生緑地)の清水頭にあった。高津区の五反田橋付近で有馬川を合わせ、さらに鶴見川に合流している。長い年月をかけて多摩丘陵を浸食し、大谷・後谷などの谷戸を発達させた。



### ③ 馬絹神社



以前、女体権現社と称した。創建年代は不明。明治43年(1910)に馬絹の八幡神社・三嶋神社・熊野神社・白山神社を合祀して神明社と改称。昭和61年(1986)、馬絹神社と改めた。境内には、

源頼朝の袖掛松と伝える「千本松」の枯れた根の一部が残されている。本殿右奥には富士塚に通じる山道があり、富士講碑・二十三夜塔・地神塔などが立てられている。

### ④ 馬絹古墳

全長が約33m、周溝は幅が約3.5m、深さが約1.5mの規模を持つ円墳。石室は奥室・中室・前室からなる複式構造であり、玄室左側壁には図柄不明の装飾文様が描かれている。盗掘を受け築造年代は不明であるが、7世紀後半代のもものと推測されている。精緻な築造技術や石室内の装飾方法は、古代朝鮮半島の古墳の影響を強く受けていると考えられている。(内部は非公開)



横穴式石室の内部 (川崎市教育委員会提供)

### ⑤ 陸軍東部62部隊跡

昭和16年(1941)、六本木で編成された東部62部隊が、召集兵の訓練と東京近郊地に駐屯する部隊の演習場として、宮前区の中心部と高津区・青葉区の一部を接收した。現在の宮崎中学校から虎の門病院分院付近に連隊本部や兵舎が置かれた。歩兵を中心に機関銃・連射砲・速射砲各中隊で編成された。

### ⑥ お化け灯籠

東部62部隊にあったが、夜毎に灯籠が六本木界隈に出没すると噂になり、昭和17年(1942)、部隊と共に移される際、足を切られてしまったともいう。



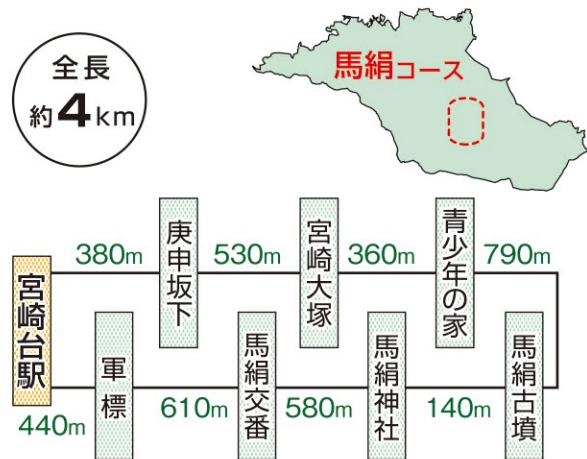
### 参考文献

『新編武蔵風土記稿二』 昭和44年 歴史図書社  
『川崎地名辞典上下』 平成8年 川崎地名研究所所蔵  
『川崎市石造物調査報告書』 昭和54年度 川崎市教育委員会

『川崎の庚申塔』 昭和60年度 川崎市博物館資料調査団  
『川崎の民俗』 昭和54年 角田益信著  
『村況史料集下』 平成2年 川崎市市民ミュージアム

# 馬絹

—馬絹古墳と花桃の里—

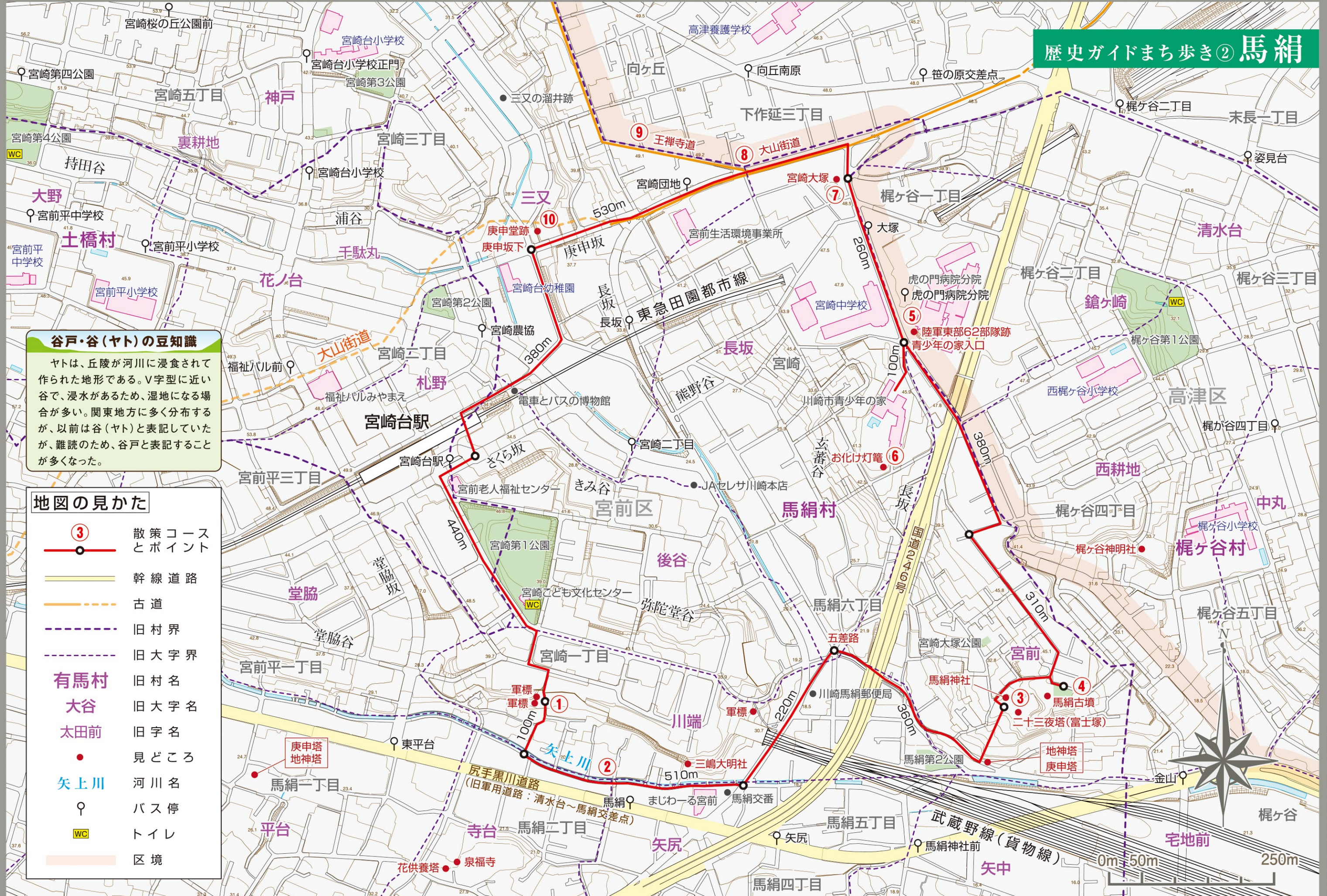


### インフォメーション: [宮崎台駅] へのアクセス

(電車) 東急田園都市線・各駅停車をご利用ください。  
(バス) 「鷺沼駅」「宮前平駅」「虎の門病院分院」などから[宮崎台駅]行きにお乗りください。



# 歴史ガイドまち歩き②馬絹



**谷戸・谷(ヤト)の豆知識**

ヤトは、丘陵が河川に浸食されて作られた地形である。V字型に近い谷で、浸水があるため、湿地になる場合が多い。関東地方に多く分布するが、以前は谷(ヤト)と表記していたが、難読のため、谷戸と表記することが多くなった。

**地図の見かた**

- ③ 散策コースとポイント
- 幹線道路
- - - 古道
- - - 旧村界
- - - 旧大字界
- 有馬村 旧村名
- 大谷 旧大字名
- 太田前 旧字名
- 見どころ
- 矢上川 河川名
- ♀ バス停
- WC トイレ
- 区境